

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
33	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Efficacy of physician-delivered brief counseling intervention for binge drinkers. 多量機会飲酒者に対する主治医による簡易カウンセリング介入の効果	
<b>執筆者</b>	
Rubio G, Jimenez-Arriero MA, Martinez I, Ponce G, Palomo T.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Am J Med. 2010 Jan;123(1):72-8.	
<b>キーワード</b>	
飲酒、多量機会飲酒、簡易介入、高リスク飲酒、プライマリーケア	
<b>要 旨</b>	
<b>背景：</b> 多量機会飲酒は米国においてよくみられる飲酒パターンである。しかしながら、多量機会飲酒者のみを対象とした簡易カウンセリング介入の効果を検証した報告はない。	
<b>方法：</b> 2003年3月1日から2006年3月1日までスペインにおいて、12カ月間のランダム化比較試験が行われた。主治医のもとで定期的な受療中の患者 15325 人が検診を受け、そのうち適格基準に合致した患者が介入群(n=371)と対照群(n=381)にランダム化された。主要評価項目は多量機会飲酒頻度および週当たり飲酒量とした。	
<b>結果：</b> 飲酒および他の特性について 2 群間で差はなかった。12 カ月の追跡終了時に、多量機会飲酒状況 (52.2% vs 67.2%, $P < .001$ )、多量機会飲酒の回数(1.14 vs 1.56, $P < .001$ )、週当たり飲酒量(19.2 vs 22.4, $P < .001$ )、および 7 日間での過剰飲酒頻度(47.9% vs 66.6%, $P > .001$ )は、いずれも介入群で有意に低下した。	
<b>結論：</b> 本研究により、日常診療下における主治医によるスクリーニングと簡易カウンセリング介入が、多量機会飲酒エピソードを有意に減少させることに関して、根拠が得られた。	